

福音の園だより

【第8号 二〇〇五年八月八日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

Fax 049・230・1112

ご家族の声

初めてニコリと笑ってくれたとき

二月中旬、Kさんより紹介され、早速家族で伺い、周囲の緑濃い環境と家庭的な雰囲気明るさが直感され、入居の方向に話が進み、二月十九日に入居したのですが、妻が混乱してホームの皆様方に大変迷惑をかけた先行きどうなるかと不安になりました。

併しホーム長ご夫妻、看護師の小川さん、ヘルパーの皆様方の手厚い介護に救われて、入居の頃から見ると落ち着きを取り戻し、ホームでの生活に少しずつ馴染んでいる様子が見えてきて本当にうれしいです。

四月頃から面会ができるようになり、大体週1のペースで七月上旬頃までは私と妻が、目線が合ってもニコリともしなかったのが、七月半ば頃行ったとき、目線が合って初めてニコリと笑ってくれたとき、ああ良かったと実感しました。

最後に、七月二三日の面会の帰り、一緒に帰ると言っただけを先に履き、私を待って外に出て男塚まで手をつなぎ、男塚の段々の所でホーム長が妻の手をつないでホームへ帰って行かれた。ホーム長の温かい人柄に感謝でいっぱいです。バス停に着くまで涙がとまりませんでした。

(T・S)

新設グループホーム実務研修参加者の声

福音の園をモデルにして

三日間の研修は、私たちにとって貴重な学びの時となりました。「福音の園・川越」で掲げている理念、介護方針に沿って、職員の方々が懸命に努力されていることが、利用者さんの自由な、ゆつたりとした生活の様子からうかがい知ることができました。利用者さんが一階と二階とを自由に往来できるようにされているのは、他の施設にはない印象深い一例でした。「みくに」は「福音の園」をモデルにさせていただいて、介護のあり方を築いていきたいと思っています。

開設まであと二ヶ月余りですが、主にお委ねして準備していきたく願っています。お世話になりました職員の皆様にご心より御礼申し上げます。

(グループホーム「みくに」松戸の園・菊谷 利昭)

静かな秘めた情熱を感じて

先日は私達を快く受け入れて下さり、ありがとうございました。成功も失敗も包み隠さず話して下さいました。ホーム長様に、嘘の無い人柄と、高齢者支援がより良くなるようにという、静かな秘めた情熱を感じました。

印象的だったのは、ご利用者様の、できる事は自分達でしようとする姿でした。「申し訳ない」という言葉を一度も聞かなかったのは自分にも出来る事があるということを感じていました。このような介護の仕方が大切だということが分かりました。スタッフが、ご利用者一人一人の状況をよく把握して、援助されていることも感じました。

三日間ではとても学びきれず、もう少しここで勉強させて頂きたいと思いました。

(介護スタッフ・片山 朗子)

ぶっつけ本番で開園した経験から

ホーム長 杉澤 卓巳

開設準備中のグループホーム代表者から採用内定者の実務研修申し出があったとき、私たちは喜んで了解しました。それは一年前を思い起こしての事です。

「グループホームは、顔なじみの介護者による家族的少人数ケアのため、見知らぬ外部者が入ってきたときに利用者が混乱してしまうので研修者受け入れは難しい。」と十月一日開園を目指して採用内定者の実務研修を依頼した折、返ってきた先方グループホーム責任者の言葉です。やむなく実務研修を断念、期待と不安の中でぶっつけ本番、開園したのでした。

開園後、九ヶ月を振り返り、「地域密着型」として外部(地域)の方々を積極的に受け入れる基本方針に誤りのなかったことを痛感しています。ボランティアをはじめとした色々な方々が来園下さることにより、混乱ではなく、かえって誰が来たんだろうと引きこもりがちな自室から顔を出される利用者。手作りの手芸品を外の方々にプレゼントすることを楽しみにしている利用者。「よくいらっしやいました」とスタッフより先にお茶を入れて差し出される利用者等々。引き続き、開かれたホーム運営を心掛けてまいります。

バザー開催へのお願い

地域の方々に向けた「開園一周年記念バザー」を、左記のとおり開催いたします。

日時・十月一日(土)、九時半～十一時半

場所・一階食堂ホール

タオル・シーツ・衣類(新品)、日用品(保存のきく物)など、ご自宅で眠っているバザー用の家庭用品などがございましたらご協力をお願いいたします。